

## 地域社会・お客さまとの環境コミュニケーション

当社は、地域社会・お客さまとの信頼関係の構築に向け、環境関連情報を積極的に情報公開するとともに、地域の皆さまと一体となった環境活動を、ともに考え、ともに行動していく「環境コミュニケーション」を推進しています。

信頼していただける企業となるために、  
地域社会・お客さまとのつながりを大切にまいります。

## ホームページなどでの環境関連情報の積極的な開示・情報発信

環境への取り組みの「いま」をタイムリーにお伝えする  
～ 環境への取り組み通信“エコログ”

電気をつくり、おくり、届けるといった電力会社の日常業務には、環境保全に貢献する取り組みが多くあります。その環境への取り組みの「いま」について、分かりやすくタイムリーにお伝えするため、2013年5月に開設したホームページコンテンツです。火力発電所のCO<sub>2</sub>排出抑制や再生可能エネルギーへの取り組み、地域の方々とともに取り組む植樹活動などについて、情報発信しています。

## 【環境への取り組み通信“エコログ”】

<http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/ecolog/index.html>

子どもたちにエネルギー・環境問題に関心を持ってもらうために  
～ 電気の世界ワン! ダブル

将来を担う子どもたちにエネルギー・環境問題について関心をもってもらうため、アニメーション形式のホームページコンテンツ「電気の世界ワン! ダブル」を掲載し、電気と環境の深いつながりや、身近な省エネ・節電方法を分かりやすく紹介しています。冒険編とTV編の2種類があり、ともに、子どもだけでなく、幅広い世代の方にお楽しみいただける内容となっています。

## 【電気の世界ワン! ダブル】

<http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/wonderful/index.html>

省エネ・省CO<sub>2</sub>の地球にやさしい暮らしをおすすめする  
～ 地球のための環境レシピ

毎日の暮らしの中から排出されるCO<sub>2</sub>量を計算することができる環境家計簿の機能や、ご家庭で気軽に取り組めるエアコンや冷蔵庫、テレビなどの電気機器の省エネ・省CO<sub>2</sub>の取り組みメニューなどをまとめたホームページコンテンツ「地球のための環境レシピ」を掲載しています。

## 【地球のための環境レシピ】

<http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/kakeibo/index.html>



## 地域社会・お客さまとの環境コミュニケーション

信頼していただける企業となるために、  
地域社会・お客さまとのつながりを大切にまいります。

## ● 地域とともに取り組む環境活動

当社の各事業所では、地域の皆さまとともに、植林活動や清掃活動などの様々な環境活動に取り組んでいます。2013年度は、520件の環境活動を実施し、地域の方々を含めて約1万6,900名に参加いただきました。

また、当社ではゴーヤなどのツル性植物をカーテンのように生育させる「緑のカーテン」を地域に広める運動を行っています。

## 原町火力発電所 「海と渚のクリーンアップ活動」

原町火力発電所（福島県南相馬市）では、毎年6月に、構内のグループ企業とともに、発電所近くの北泉海岸および烏崎海岸の清掃活動を行っています。この清掃活動は、1998年から10年以上継続しており、毎回100名程度が参加しています。

なお、この清掃活動については、地域の環境美化への貢献が認められ、2014年5月に「平成26年度クリーンふくしま功績者表彰（団体の部）」を受賞しました。



清掃活動の様子

## 緑のカーテン運動 2014

ゴーヤなどのツル性植物を、建物の窓の外や壁面に張ったネットなどに這わせるように生育させた「緑のカーテン」は、自然の力を利用した省エネ対策です。震災後は、電力需給の逼迫により節電対策としても注目を集め、急速に普及が進んでいます。

当社では、「緑のカーテン」を地域に広める運動に2010年度から取り組んでいます。2014年度も、本運動に参加し、「緑のカーテン」の栽培に取り組んでいただける方を募集したところ、多くの地域の皆さまにご参加いただきました。また、当社113事業所、企業グループ8社においても、事業所での栽培や、小学校の児童の皆さんとの栽培活動など地域の皆さまとともに取り組んでいます。

当社事業所の「緑のカーテン」の生育状況や、地域の皆さまとともに取り組んだ活動の様子などは、当社ホームページで紹介しています。

## 〔緑のカーテン運動〕

<http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/g-curtain/index.html>



〔上〕地域の社会福祉施設における植栽の様子（新発田営業所）

〔下〕当社事業所における栽培の様子（八戸営業所）

## TOPICS

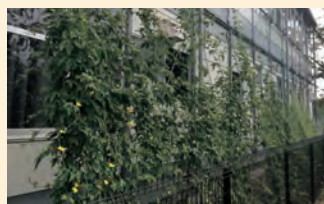
東松島市立野蒜<sup>のびる</sup>小学校の「緑のカーテン」栽培をお手伝い  
～被災地の復興を支援する取り組み

石巻営業所（宮城県石巻市）では、東日本大震災による津波で大きな被害を受け、2012年1月から仮設校舎で授業を行っている東松島市立野蒜小学校において、夏場の暑さ対策に有効な「緑のカーテン」の栽培をお手伝いしています。

昨年に引き続き、2014年5月に、6年生の児童の皆さんとともにゴーヤとアサガオの植栽を行いました。児童の皆さんからは、「ゴーヤやアサガオが成長すれば涼しくなるので、きちんと水やりをしたいと思います。」との感想をいただき、学校からは「仮設校舎のため、午後の日差しが入ると40℃近くまで室温が上がってしまう。緑のカーテンが大きく育ち、涼しくなる」とのお言葉をいただきました。



児童の皆さんとの植栽の様子（2014年5月）



大きく育った緑のカーテン（2014年8月）





# 環境コミュニケーションの推進

## 地域社会・お客さまとの環境コミュニケーション

信頼していただける企業となるために、  
地域社会・お客さまとのつながりを大切にまいります。

### ● 環境・エネルギーに関するコミュニケーション

環境問題は、私たちのエネルギー消費と密接に関係しています。当社では、身近な電気・エネルギーをテーマに、日本のエネルギー事情や資源など、地球規模の問題について、地域のみなさまと一緒に考える活動に取り組んでいます。

#### エネルギー出前講座

小学校・中学校や地域の学習施設などに社員がお伺いし、暮らしの中における電気の役割をはじめ、家庭に電気が届くまでの道のりや発電の仕組み、エネルギーと地球環境の関わりなどについて、分かりやすい説明を行っています。手回し発電機や発電所模型などの実験機材も使った体験型の学習会です。



エネルギー出前講座の様子

〔エネルギー出前講座〕

[http://www.tohoku-epco.co.jp/syakai/05\\_energy.html](http://www.tohoku-epco.co.jp/syakai/05_energy.html)

#### 発電所見学会

普段ご使用いただいている電気がどのような仕組みでつくられているのかを、電気の工場である“発電所”でご覧いただけます。それぞれの発電方法の環境へのメリット・デメリットを知ることで、環境問題を考えるきっかけ作りになっています。



地熱発電所見学の様子

〔東北電力PR館のご案内〕

<http://www.tohoku-epco.co.jp/pr/>

### TOPICS 「東北電力グループふれあい環境イベント エコ・フェス2014」を開催

当社企業グループは、6月の環境月間にあわせて、2014年6月3日～7日までの5日間、宮城県仙台市にある東北電力グリーンプラザを会場に「東北電力グループふれあい環境イベント エコ・フェス2014」を開催しました。

このイベントは、エネルギー問題や環境問題について地域の皆さまとともに考えるきっかけ作りとして開催したもので、ご来場いただいたお客さまからは、「様々な体験を通じて、楽しく学べた」などの感想をいただきました。

今後もこのようなイベントを通じて、日常生活の中でのエコや省エネについて、お客さまとともに考え、行動するきっかけ作りを行い、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

日 時 2014年6月3日(火)～7日(土) 10時～18時(最終日は16時まで)

場 所 東北電力グリーンプラザ(宮城県仙台市)

後 援 東北経済産業局、東北地方環境事務所、宮城県、仙台市

主なイベント内容 自転車発電やCO<sub>2</sub>の重さ体験、ご家庭の光熱費診断のほか、日替わりでエコに関するイベントや体験教室を開催しました



「東北電力グループふれあい環境イベント エコ・フェス2014」の様子  
(左写真/東北電力サイエンスショー、中央写真/エコたわし作り体験教室、右写真/発電自転車体験)



東北の“みどりの復興”を応援したい

## 社員ボランティア活動「海岸防災林復活活動」

東日本大震災の津波により、美しい景観を保ちながら様々な自然災害から私たちの命や財産を守ってきた太平洋沿岸の「海岸防災林」は壊滅的な被害を受けました。

海岸防災林の浸水被害面積は、東北地方だけで2,825ヘクタール、東京ドーム約600個分に相当します。被災林の再生には宮城県だけでも600万本以上の苗木が必要と言われており、苗木の供給不足が懸念されています。<sup>(※)</sup>

一方で、当社は、東北地域で事業を営む企業として創立から約60年間、一貫して地域とともに歩んでまいりました。当社社員の多くは、この「地域とともに」という理念のもと、「少しでも復興の役に立ちたい」といった強い想いを抱いています。『震災によって失われた豊かな「海岸防災林」の復活を望む地域の方々の想い』、『東北の復興に積極的に関わり復興を支援したいという社員の志、想い』、これをマッチングして、被災地に「みどり」と「笑顔」を届けたい。このような考えから生まれたのが、社員ボランティアによる「海岸防災林復活活動」です。現在、横浜国立大学名誉教授 宮脇昭氏の呼びかけにより設立された「いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会」様（会長：仙台市金剛賣山輪王寺 住職 日置道隆氏）よりご支援をいただきながら、職場や社員の自宅・寮などで主にシラカシを育苗し、日々の生長を見守りながら、1本でも多くの海岸防災林の復活を目指して活動しています。

(※出典：林野庁 東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会「今後における海岸防災林の再生について」)



植樹へのボランティア参加の様子（2013年10月「福島県南相馬市鎮魂復興植樹祭」、2014年5月「宮城県岩沼市第2回千年希望の丘植樹祭2014」）



植樹から1年経過した木々たち（宮城県岩沼市／2014年5月）

### VOICE

#### 海岸防災林の植樹に参加して

ボランティア参加者 環境部（環境企画） 佐々木 勇太

東日本大震災以降、ふるさとの復興のために何かしたいと考えていたところ、同じ職場の先輩が海岸防災林の復活活動に取り組んでいることを知り、自宅でのシラカシの育苗や植樹にボランティアとして参加しています。

2014年5月に宮城県岩沼市で開催された「第2回千年希望の丘植樹祭2014」には3歳の息子とともに参加し、シラカシなどの苗木を一緒に植えました。人生初めての植樹となった息子は若干戸惑っていましたが、一つ一つの苗に心を込めて植樹しました。息子の成長と同じように、植樹した苗木も順調に成長することを願い、これからも育苗や植樹に取り組んでいきたいと思っています。

